

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	138人	社会	138人	数学	138人
	理科	138人	英語	138人		

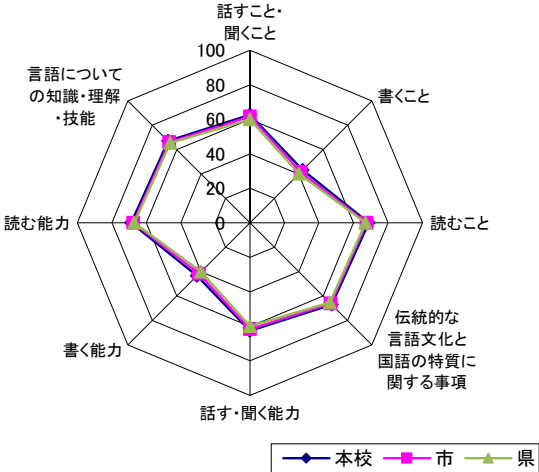
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	62.6	61.6	59.9
	書くこと	43.3	41.7	40.1
	読むこと	68.8	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.1	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	62.6	61.6	59.9
	書く能力	43.3	41.7	40.1
	読む能力	68.8	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	67.1	66.1	65.4



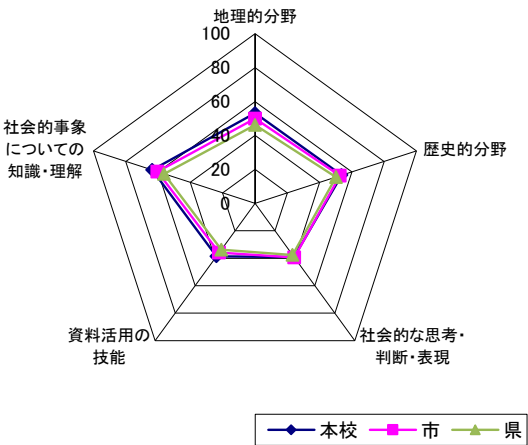
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことに関しては、県よりも2.7ポイント上回っており、市よりも1.0ポイント上回っている。設問別では、必要に応じて質問しながら話を聞き取るや相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる設問の正答率が、県や市と比較して高い。 ●事実と意見の関係に注意して話を構成する設問の正答率が低く、市よりも1.1ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の学習形態を工夫し、スピーチ、意見文の発表、ディベート、小グループでの話し合い活動を取り入れながら、話すこと・聞くことの指導を継続していく。 ・日頃から事実と意見を分けながら、聞いたり話したりすることを指導していく。
書くこと	○書くことについては、県より3.2ポイント上回っており、市より1.6ポイント上回っている。設問別では、カードを整理し、文章の構成を考えて鑑賞文を書く設問やカードを基に前につながる形で言葉を書く設問の正答率が、県や市と比較して高い。 ●カードを基に、考えの根拠を明確にして鑑賞文を書く設問については、県より0.1ポイント、市より2.3ポイント下回っている。	・教科書で取り上げた作品ごとに、感想や自分の意見を文章にする経験を通して、文章を書くことに慣れさせたい。 ・授業の中で、根拠を明確にして自分の意見を書く活動を設定し、書く機会を多くすることで、書く力を伸ばしたい。
読むこと	○読むことについては県より1.8ポイント、市より1.0ポイント上回っている。設問別では、描写を踏まえて登場人物の心情を捉える設問や会話文を基に登場人物の心情の変化を捉える設問の正答率が高く、県・市を大きく上回っている。 ●文章中の空欄に入る接続語を選ぶ設問については県より4.2ポイント、市より4.5ポイント下回っている。	・文学的文章の読み取りに比べて、説明的文章の読み取りが苦手な生徒が多いので、日頃から説明や評論の文章を題材にしながら、接続詞をもとに構成や展開に注目させる指導を行う。 ・幅広いジャンルの本に親しめるように読書指導を継続して行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、県より1.7ポイント、市より1.0ポイント上回っている。設問別では、文節の分け方についての設問の正答率が県・市と比較して高い。 ●漢字の読み書きについては、問題により県や市の平均を下回っているものもある。	・漢字学習の定着のために、漢字学習ノートを活用し、毎週漢字テストを行う取り組みを継続しながら、漢字の語句の意味を理解して、文章の中で使えるよう指導する。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	53.2	50.0	46.2
	歴史的分野	53.7	52.6	50.2
	社会的な思考・判断・表現	39.1	39.4	37.6
	資料活用 の技能	38.5	35.9	33.8
	社会的事象 についての知識・理解	63.6	60.4	56.3



★指導の工夫と改善

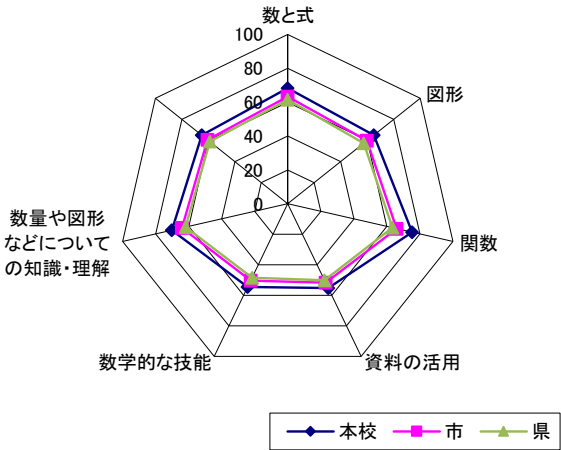
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	平成29年4月18日（火）	今後の指導の重点
地理的分野	○領域全体では、県の平均を7ポイント、市の平均を3.2ポイント上回っており、歴史的分野と比較しても正答率の高さが目立っている。設問別では、地球儀上に示された地点の経度を読み取る問題、適切な地図を選択し、示された地点の方位を示す問題の正答率が県や市の正答率をそれぞれ上回っており、資料の読み取りが適切にできる生徒が多いと考えられる。また、アジア州に位置する山脈の名称答える問題の正答率が73.9ポイントと県や市の正答率を20ポイント以上上回っており、アジア州に関係する問題の正答率は、すべて県や市の正答率を上回っている。 ●設問別では、イスラム教の宗教分布を読み取る問題の正答率が、市の平均を8.7ポイント、県の平均を3.8ポイント下回っている。また、オーストラリアとニュージーランドの先住民の名称の組み合わせを選ぶ問題の正答率が、市の平均を10.9ポイント下回っている。	地図や主題図、写真などの資料から社会的事象を読み取る学習を継続していきたい。世界の様々な地域の学習では、アジア州の正答率が市や県の平均を上回っており、生徒が実生活との関連を想起しやすい単元では学習効果が高まっていると考えられる。反面、オセアニア州などの学習では、先住民族への理解が十分でないなどの結果が出ていることから、生徒が日常生活と関連付けられるような教材の開発や指導内容の工夫をしていくことが今後の課題として考えられる。
歴史的分野	○領域全体では、県の平均を3.5ポイント、市の平均を1.1ポイント上回っている。設問別では、年表に当てはまる時代区分を選択する問題の正答率が、市の平均を4.4ポイント、県の平均を6.6ポイント上回っており、西暦年から何世紀に該当するかを答える問題では、市や県の平均を19ポイント以上上回る正答率であり、歴史をとらえる要素が正しく身に付いている生徒が多いと考えられる。 ●地理的分野と比較すると、正答率が市の平均を下回る問題数が多い。時代を正確にとらえた知識の定着が不十分な例が見受けられる。律令制における朝廷から派遣された役人を答える問題では、県の平均を1.5ポイント上回っているが、市の平均は5.5ポイント下回っている。また、資料の内容として適しているかどうかを判断する問題や各時代の仏教の特徴を年代ごとに並び替える問題の正答率がいずれも県と市の平均を4～6ポイント下回っている。	平安時代や鎌倉時代などの時代区分を正確にとらえることができる生徒が多いが、それぞれの時代に関する知識の習得には課題が見られる。特に時代より深い学びを実現するために、各時代ごとの特色を具体的に把握することができると学習単元を計画し、実践したい。例えば、鎌倉時代の仏教を学習する授業において、奈良時代や平安時代の仏教との比較や検討を行う授業を展開することで、鎌倉時代の仏教の特徴の理解が深まることが考えられる。そのためにも執権や管領などの時代によって移り変わる用語の解説を行ったり、仕組み図や当時の地図資料、文章史料などを読み取る機会を増やしたりできるような教材研究に力を入れていきたい。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	68.3	63.3	61.5
	図形	64.9	59.8	57.4
	関数	75.3	65.9	63.4
	資料の活用	55.2	51.7	50.1
観点	数学的な見方や考え方	54.5	50.4	48.5
	数学的な技能	70.2	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	64.9	60.6	58.9



★指導の工夫と改善

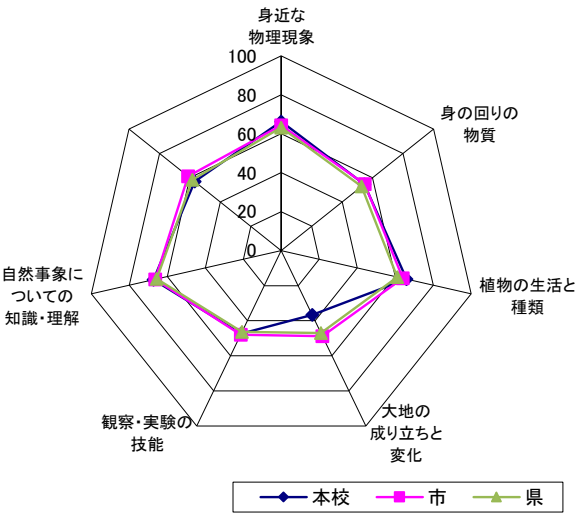
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○基礎的な内容を問う問題においては県の平均正答率を上回っており、おおむね良好である。特に一次方程式の計算では県、市の平均正答率を10ポイント以上上回っている。 ●与えられた図と式から考えを書く記述式の問題では、県、市に比べ無回答率は低いが、県の平均正答率を1.1ポイント、市の平均正答率を0.3ポイント下回っている。	・身近で具体的な事象を用いた学習で計算の仕組みを深く理解させ、十分な問題演習の機会を通して更に計算力の向上を図りたい。
図形	○基礎的な内容、活用において、県、市の平均正答率を上回っており良好である。特に用語を答える問や扇形の面積を求める問題、作図においては県の平均正答率を10ポイント以上上回っている。	・身近にある具体的な事象等に数学を発見する体験を授業に多く取り入れ、具体物を模式化して理化する力を高めさせたい。
関数	○全ての基礎的な問題において、県の平均正答率を11ポイント～17ポイント、市の平均正答率を6～14ポイント上回っている。比例・反比例の活用の問題についても、県の平均正答率を6.2ポイント、市の平均正答率を5.1ポイント上回っており、良好である。	・表、式、グラフを用いて関数関係を表現する力は十分身につけている。表、式、グラフそれぞれのよさを実感できる授業を通して、グラフの活用の幅を広げたり、表や式の有用性を考えさせたりしたい。
資料の活用	○度数分布表から階級や相対度数を求める基礎的な内容については、県、市の平均正答率をともに上回っている。 ●ヒストグラムから状況を読み取り、理由を記述する活用の問については県の平均正答率を2.3ポイント、市の平均正答率を3ポイント下回っている。	・中央値、最頻値、階級値等の用語を知識として理解させるだけでなく、身近な具体例を用いたり、度数分布表やヒストグラムからどんな事が読み取れるのか、考える活動を増やし理解を深めていく。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	66.3	64.3	63.2
	身の回りの物質	54.6	54.8	52.8
	植物の生活と種類	66.0	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	36.6	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	47.4	48.0	46.4
	観察・実験の技能	67.3	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	56.8	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

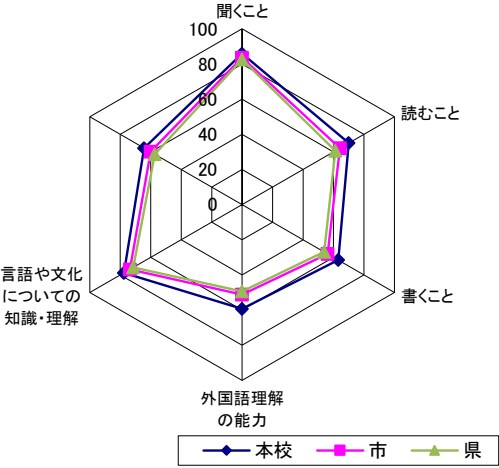
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○領域全体では、県の平均を3.1ポイント上回っている。特に、力を矢印で表す問題では、県の平均を15.3ポイント上回っている。 ●設問別では、物体が見えるときの目に届く光の経路について問う問題で、県の平均を6.3ポイント下回っている。	・光の経路については、線香の煙の中でレーザー光線を通すことによって見やすくするなどの工夫をすることで、体験的に理解させたい。
身の回りの物質	○領域全体では、県の平均を1.8ポイント上回っている。設問別では、水素の性質を問う問題で12.1ポイント、実験結果をもとに物質を特定する問題で10.1ポイント、それぞれ上回っている。 ●設問別で、グラフを読み取る問題で6.1ポイント、状態変化の際の質量と体積の関係について問う問題で6.1ポイント、それぞれ県の平均を下回っている。	・グラフについては、各学年で何度も出てくるものなので、その都度、そのグラフが何を意味しているのかを丁寧に説明することでグラフの読み取り方について理解させたい。 ・状態変化の際の体積・質量の関係については身近な現象を例に挙げながら、質量は変化しないが体積は変化することを理解させたい。
植物の生活と種類	○領域全体では、県の平均を4.9ポイント上回っている。特に、実験の操作について問う問題では、県の平均を13.6ポイント上回っている。 ●設問別で、スケッチの方法について問う問題で、県の平均を5.8ポイント下回っている。	・スケッチについては、観察を行うごとにかくものなので、点と線を用いて描き、影をつけないことなどを指導していくことで身につけさせていきたい。
大地の成り立ちと変化	○設問別で、震度やマグニチュードの説明について問う問題で、県の平均を8.2ポイント上回っている。 ●領域全体として、県の平均を10.4ポイント下回っている。設問別では、地震のゆれの種類について問う問題で20.9ポイント、示準化石を問う問題で28.3ポイント、地層の読み取りの問題で13.4ポイント、県の平均を下回っている。	・基本的な用語の正答率が低いことから、それらの用語が身についていないと考えられる。単語だけでなく、その意味することを丁寧に説明しながら、用語を覚えていけるようにしていきたい。また、基本的な用語を問う小テスト等で、繰り返し答えさせることでしっかり定着させていきたい。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	85.9	83.6	82.6
	読むこと	70.0	64.2	61.2
	書くこと	63.1	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	59.3	51.2	49.4
	外国語理解の能力	77.6	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	64.3	60.1	57.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○聞くことに関しては、市より2.3、県より3.3ポイント上回っている。設問別では、スピーチを聞いて質問に答える問題の正答率が、市より6、県より約10ポイント上回っている。 ●対話文を聞き取る問題の1つで正答率が、市より4、県より4.6ポイント低い。	・対話文やまとまりのある英文の聞き取りに関しては、教科書の導入などで本文のリスニングを行う際に、時制や時を表す語句、疑問詞などの聞き取るポイントを押さえ、メモしながら聞くことの練習をしていきたい。 ・日々の授業で、英語で指示をしたり、インタラクションの場を増やし、英語に触れる時間を多くしていきたい。
読むこと	○読むことに関しては、市より5.8、県より8.8ポイント上回っている。設問別では、すべての設問において、正答率が市、県より上回る結果となっている。中でも手紙の文の読み取りが、県より約10ポイント以上高い。 ●イラストや表を用いた案内の読み取りは正答率が高いが、手紙の文の読み取りでは低い。	・授業では、教科書の導入時に本文を黙読して内容を把握する活動をしたり、内容を理解するために必要な語句、連語、慣用表現や、基本的な文法事項の指導をより意識して、定着度を確認していきたい。
書くこと	○書くことに関しては、市より6.9、県より9.3ポイント上回っている。すべての設問において正答率が10ポイント以上高い。 ●Which＋名詞の語順と、道順をたずねる文の正答率が、市より5ポイント低く、県の状況は上回るが、20%台と低い。	・様々な場面で用いる適切な表現を口頭で練習した後、次のステップとして、その表現を書くことができるまでの活動をしていきたい。 ・新しい文法事項を導入、練習した際には、最後にまとめとして、その文法を用いてテーマに沿った自己表現の英文を書く活動を取り入れる。習熟度に合わせて、書く量を指示していきたい。 ・適切な英文を書くための基礎となる文法事項の指導にも力を入れていきたい。

宇都宮市立一条中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学校や家庭での学習について】

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問内容に対して本校の肯定的回答割合は、市や県と比較して5～8ポイント上回っている。また、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」という質問内容に対して、本校の肯定的回答割合は市や県と比較して15ポイント近く上回っている。これらの結果から、多くの生徒が自ら進んで学習に取り組んでいることがわかる。

○「家で、学校の宿題をしている」という質問内容に対して、本校の肯定的回答割合は100パーセントであった。また、「家で、自分で計画を立てて勉強している」や「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」という質問内容に対しても、本校の肯定的回答割合は市や県と比較して10ポイント程度高く、比較的家庭学習の習慣が身についていることが読み取れる。

●「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている。」や「授業の最後に学習を振り返る活動をよく行っている」、「授業で扱うノートには、授業の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」という質問内容に対して、本校の肯定的回答割合は市や県を下回っている。特に「振り返りの活動」に関しては、肯定的に回答している生徒が6割に満たない。授業で学習したことを定着させるために、授業のはじめにめあてやねらいを示し、授業の終わりに振り返りを行う授業を実践していく。

【毎日の生活について】

○「毎日、同じぐらいの時刻に寝ている」「早寝早起きを心掛けている」という質問内容に対して、本校の肯定的回答割合は市や県と比較して9～10ポイント程度高く、さらに「毎日朝食を食べている」についての肯定的回答割合は100パーセント近い。これらのことから、多くの生徒が比較的規則正しい生活を送っていると考えられる。

●「家の人と将来のことについて話すことがある。」という質問内容に対して、本校の肯定的回答割合は6割強で、市や県と比較しても若干低い。「学校の出来事について話している。」という質問については肯定的回答割合は8割を超えているので、将来の夢や進路のことが話題に上る機会が少ないのではないかと考えられる。「将来の夢や目標を持っている」の項目には8割程度の生徒が肯定的回答を寄せているので、今後の立志式などの行事を機に、将来の夢や生き方、進路などについての話題を生徒や保護者に提供していく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○授業の目標(めあて・ねらい)を明確に示す。	○課題を明確に示して生徒全員に学習の見通しを立てさせるとともに、授業の目標を板書しノートに記入させる。	○「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」に対する肯定割合は68.8%で、県平均82.5%を大きく下回っている。今後、取り組みを強化していく必要がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」という質問に対する肯定割合は56.9%で、県平均を4.4ポイント下回っている。	○効果的な授業の振り返りを行い、家庭学習への意欲を高めさせる。	○一条地域学校園で連携し、「効果的な振り返り」について研究を進める。 ○「まとめ・振り返り」を意識した授業づくりを行う。